

第34期 (2014年6月期)

第3四半期連結業績説明資料

2014年 5月

ドン.キホーテ HLDGS

専務取締役 兼 CFO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki-hd.com>

e-mail : ir@donki.co.jp

ドンキホーテHD、最高益更新

13年7月～14年3月期

ドンキホーテHDが7日に発表した2013年7月～14年3月期の連結決算は、営業利益が前期比10%増の289億円、経常利益は11%増の298億円、純利益は14%増の188億円と、引き続き大幅増益を達成し、予想を上回る順調な進捗を見せている。

売上高は7%増の4,618億円、グループ店舗数は280店となった。

小売業を取り巻く環境は、景気回復の動きが見え始めた一方で、消費税増税や社会保障費の負担増などが、先行きに対する力強さを欠く面も同居させた不安な状況で推移している。

同社の戦略は堅実だ。MEGA店の出店と併せて、最適なセールスマックスの追求と売上総利益の増大策を、消費税増税に係る短期的な施策とする一方で、グループ事業の再編や海外事業の着手などを通じて将来を睨んだ施策も着々と推し進めている。

14年6月期における業績予想は、営業利益は342億円に据え置いたが、売上高6,050億円（6%増）、経常利益350億円（5%増）及び純利益222億円（5%増）と中間期に続いて従来予想を上方修正し、25期連続増収増益を射程圏内に入れた。



2014年6月期 3Q 決算概況

- ✓決算業績概況
- ✓事業別業績概況
- ✓主な資産、負債・純資産の状況
- ✓セグメント情報
- ✓キャッシュフロー&設備投資の状況

ドン・キホーテグループトピックス

- ✓月次販売高の状況
- ✓出店状況&ハイライト情報
- ✓ようこそドン・キホーテへ
- ✓消費税増税前商戦
- ✓上場子会社の状況

2014期6月期 通期業績予想

- ・本資料における記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。
- ・本資料中、ドンキホーテHD(7532)は「DQHD」、ドン・キホーテ、または同店舗は「DQ」、アクリーティブ(8423)は「ACR」、日本アセットマーケティング(8922)は「JAM」と表示している箇所があります。

1. 3Q累計連結業績概況

消費増税時代に向けた布石を着々と打ち続けて、新規の需要喚起と顧客獲得作戦の手応え充分！！

- ▶消費増税の実施を見据えて臨んだ当期。
プライベートブランド商品を中心とした新商品の開発投入や絞り込みと併せて進める商品改廃など、「最適なセールスマックスの追求」の手を緩めず、適時・適量・適価で「売上総利益の増大」策を遂行。いずれも予想以上の成果を収める。
- ▶効率性を求めながら展開を進める新規出店。
首都圏一等地戦略の推進でドミナントエリア内シェア拡大に寄与。
一方で、順調に顧客支持率と存在感を高めているMEGA店は、日常的な消費生活になくてはならない店舗として、地域社会に浸透。収益力はますます拡大。
- ▶従来の学習効果を活かしながら、満を持して臨んだ3月商戦。
高単価商品の動きが鈍く立ち上がり不安要素も、「食品」や「日用消耗品」を中心とした日常品の商品構成と価格提案で、お客さまにアピール。駆け込み需要が徐々に加速し、空前絶後の記録で月末日を締める。
- ▶3Qの状況は、1月は初売り営業日減少、2月は2週連続の降雪ダメージが大きく、弱含みで進捗したが、3月は消費増税前のまとめ買い需要が週を追う毎に加速！
- ▶これらのことから、3Q累計連結業績は、増税前特需も取り込んで売上高4,618億円（前期比7.9%増）、営業利益289億円（同10.7%増）、経常利益298億円（同11.6%増）及び当期純利益188億円（同14.9%増）と増収増益を達成し、通期予想に対する進捗率も順調に推移して着地！！

2. 通期業績見通し

前回予想を上方修正し、「25期連続増収増益」を見込む！

- ▶連結業績の進捗状況を踏まえた通期業績の見通しについて、2014年2月5日に上方修正した予想を再度修正。
営業利益342億円は従来予想を据え置くが、売上高6,050億円（前回予想は5,963億円）、経常利益350億円（同348億円）及び当期純利益222億円（同218億円）を予想し、25期連続増収増益達成を見込む。

3Q累計業績サマリー

ドンキホーテ HLDGS

【期間：2013年7月1日～2014年3月31日】

(単位：百万円)

連結実績	当3Q累計実績				前3Q実績		通期公表予想 ※1	
	金額	百分比	前期比	進捗率 ※3	金額	百分比	金額	百分比
売上高	461,776	100.0%	107.9%	77.4%	428,070	100.0%	596,300	100.0%
売上総利益	121,702	26.4%	107.6%	76.7%	113,074	26.4%	158,700	26.6%
販管費	92,764	20.1%	106.7%	74.5%	86,936	20.3%	124,500	20.9%
営業利益	28,938	6.3%	110.7%	84.6%	26,138	6.1%	34,200	5.7%
経常利益	29,816	6.5%	111.6%	85.7%	26,728	6.2%	34,800	5.8%
当期純利益	18,764	4.1%	114.9%	86.1%	16,333	3.8%	21,800	3.7%
1株利益	240.25円			113.6%	211.58円		278.80円	

個別実績 ※2	当3Q累計実績				前3Q実績	
	金額	百分比	前期比	進捗率	金額	百分比
売上高	168,973	100.0%	56.9%	—	297,097	100.0%
売上総利益	45,794	27.1%	59.0%	—	77,615	26.1%
販管費	35,514	21.0%	60.6%	—	58,562	19.7%
営業利益	10,280	6.1%	54.0%	—	19,053	6.4%
経常利益	13,207	7.8%	67.7%	—	19,506	6.6%

※1. 連結業績予想は、2014年2月5日に当初予想（売上高5,963億円、営業利益335億円、経常利益340億円、純利益215億円）を上方修正したものであります。

※2. 個別実績については、当2Q累計期間から純粋持株会社「ドンキホーテホールディングス」が対象会社になっております。（前期はリテール事業会社「ドン・キホーテ」が対象）

※3. 進捗率は通期予想に対する進行割合を表しております。

※4. 個別業績予想については、当社は公式開示しておりません。

3Q累計連結業績概況コメント

ドンキホーテ HLDGS

▶ 連結売上高：4,618億円（前期比7.9%増）

前期から当2Qまで、消費税増税に向けた準備と対策を粛々と進めて、組織編制や商品ラインナップを大胆に修正。一方で在庫抑制も進めながら万全の態勢を整える。

増税直前商戦は、高単価商品よりもコモディティ商品の品揃えでお客様の期待に応える。

DQ既存店の3月度は16.7%増と大幅増収。3Q累計は1.5%増となる。

長崎屋MEGAの3Q累計は5.9%増と顧客志向の底力を発揮中。

▶ 当3Q末店舗数：280店（前期末255店）

新規出店15店（DQ7店、MEGA1店、New MEGA6店、ピカソ1店）、Marukai11店舗(M&A)、改築のための休業2店、閉鎖1店（DQ1店）。

▶ 連結売上総利益：1,217億円（同7.6%増） 同率：26.4%（前期比同水準）

消費税増税を見据えて推進してきた「売上総利益増大策」は、予想に違わない成果を出現。

当3Qは一転してお客さまの生活防衛マインドにお応えするため、「食品」及び「日用消耗品」など、比較的高回転の一方で低粗利商品が多いコモディティ系商品を強かに販売促進。

▶ 連結販管費：928億円（同6.7%増）、同率：20.1%（同0.2pt改善）

15店の新規出店に伴う人件費や備品消耗品費など、初期費用を含めた諸費用が増加。

さらにグループ事業再編に伴って発生した支払手数料や租税公課などの一過性費用（10.5億円）などで、販管費は928億円となったが、販管費率は増収効果などもあって0.2pt改善。

▶ 営業外収支尻：8.8億円のプラス

受取利息4億円、負ののれん償却3億円/支払利息8.5億円など。

▶ 特別損益尻：3.3億円のマイナス

固定資産売却益2.1億円/固定資産除却損3.3億円、店舗閉鎖損失2.1億円など。

▶ これらのことから、営業利益289億円（同10.7%増）、経常利益298億円（同11.6%増）、当期純利益188億円（14.9%増）と当3Qも予想を上回って大幅増益を達成し、3Q累計期間最高益を更新。

3Q累計連結業績概況

ドンキホーテ HLDGS

【期間：2013年7月1日～2014年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q (累計)		前3Q (累計)		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	461,776	100.0%	428,070	100.0%	107.9%
売上総利益	121,702	26.4%	113,074	26.4%	107.6%
販管費	92,764	20.1%	86,936	20.3%	106.7%
給与手当	32,105	7.0%	29,566	6.9%	108.6%
地代家賃	13,213	2.9%	12,873	3.0%	102.6%
支払手数料	11,157	2.4%	9,883	2.3%	112.9%
減価償却費	7,453	1.6%	7,369	1.7%	101.1%
その他	28,836	6.2%	27,245	6.4%	105.8%
営業利益	28,938	6.3%	26,138	6.1%	110.7%
経常利益	29,816	6.5%	26,728	6.2%	111.6%
当期純利益	18,764	4.1%	16,333	3.8%	114.9%
1株当たり純利益	240.25円		211.58円		113.6%

3Q累計事業別業績概況コメント

ドン・キホーテ HLDGS

▶リテール事業4,452億円（前期比8.0%増）

台風・積雪などの天候不順が及ぼす「お客さま来店数」へのマイナス要因に苦慮するものの、季節イベント関連商品は早期展開で確実に商機を捉える。「研ぎ澄まされた」商品構成と価格設定が奏功し、顧客支持率が加速度的に上昇

*「家電製品」428億円（同0.8%減）

AV家電の市場縮小やゲーム関連商品の主役不在を主要因としてトップラインは伸び悩む。好調なスマートフォンアクセサリとPOSAカードを2トップとしながら、IH炊飯器やコーヒーメーカーなどの「調理家電」の需要が拡大。

*「日用雑貨品」1,038億円（同10.0%増）

洗剤やシャンプーなどの消耗品やステンレスボトルなどの台所用品は「高機能・高付加価値商品」をキーワードに、堅実な推移を描く。商品構成が充実した化粧品や医薬品が高成長。

*「食品」1,337億円（同10.5%増）

女性客のリピーター増を享受しながら安定的に推移。クリスマス・花見などの季節イベント需要の先取りに成功し、チョコレートなどの菓子類、焼酎などの酒類が牽引。ブームに下支えされたヨーグルトや機能性食品が伸長。

*「時計・ファッション用品」1,016億円（同2.9%増）

為替変動に伴って輸入ブランド商品は苦戦した一方で、アクセサリなどの宝飾品・腕時計は力強い基調で推移。機能性下着などの実用衣料やパーティーコスチュームに加えて、帽子や手袋などの服飾小物やカバン類が貢献。

*「スポーツ・レジャー用品」260億円（同5.5%増）

車載用の芳香剤やスマートフォン充電器などの「カー用品」が好調。バーベキューやウィンタースポーツなどの「アウトドア用品」も人気を獲得。

*「DIY用品」136億円（同3.2%増）

当期から推し進めた「単品強化」と「きめこまやかな商品提案」が奏功し始めて、DIY商品の支持率が高まる。さらに小回りを利かせた能動的な営業施策が実績に直結。

*「海外（アメリカ）」167億円（同68.6%増）

Marukaiが新たに連結。惣菜・青果・生鮮など食品部門が全体を牽引。季節需要を狙ったインスタアキッチンの焼きたてターキーやケーキが大ヒット。既存3店はUSドルベースで1.9%増。
（ご参考：当3Q \$1=100.2円、前3Q=80.4円）

▶テナント賃貸事業126億円（同3.0%増） JAM事業が本格稼働。

3Q累計事業別業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【期間：2013年7月1日～2014年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q (累計)		前3Q (累計)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	445,154	96.4%	412,031	96.3%	108.0%
家電製品	42,832	9.3%	43,166	10.1%	99.2%
日用雑貨品	103,774	22.5%	94,322	22.0%	110.0%
食品	133,695	29.0%	121,032	28.3%	110.5%
時計・ファッション用品	101,584	22.0%	98,732	23.1%	102.9%
スポーツ・レジャー用品	26,022	5.6%	24,674	5.8%	105.5%
DIY用品	13,572	2.9%	13,152	3.1%	103.2%
海外	16,735	3.6%	9,923	2.3%	168.6%
その他商品	6,940	1.5%	7,030	1.6%	98.7%
テナント賃貸事業	12,599	2.7%	12,230	2.8%	103.0%
その他事業	4,023	0.9%	3,809	0.9%	105.6%
合計	461,776	100.0%	428,070	100.0%	107.9%

※「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

主な資産の状況

(単位：百万円)

	14年3月	13年6月	増減額
流動資産	166,168	143,391	22,777
現預金	49,620	31,698	17,922
商品	86,617	85,997	620
固定資産	265,170	243,231	21,939
建物等	74,876	66,097	8,779
土地	115,085	107,905	7,180
敷金保証金	31,009	31,762	▲753
資産合計	431,338	386,622	44,716

主な資産の状況

▶ **総資産：4,313億円**（前期末比447億円増）
 主な増加要因は、現預金179億円増、受取手形及び売掛金31億円増、棚卸資産6億円増及び出店に伴う有形固定資産192億円増、無形固定資産30億円など。

▶ **現預金：496億円**（同179億円増）
 既存事業については、経営効率を高める運営に注力。一方でグループ事業再編と資産流動化の実施に伴い、ニューマネーの調達を実行。

▶ **商品：866億円**
 （同6億円増、前3Q末比19億円増、2.3%増）
 消費税増税を見据えた交差主義比率の改善を意識した営業施策を推進し、商品の改廃を積極的に進めた上で3月商戦は売れ筋商品を積み込んで臨む。併せて滞留在庫の販売促進や処分を強化したこともあって在庫水準は身軽に。

▶ **固定資産：2,652億円**（同219億円増）
 当初予想を上回る3Qまでの新規出店15店及び次期以降の出店物件の獲得により、建物・土地などの有形固定資産192億円増、無形固定資産30億円増。

主な負債・純資産の状況

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	14年3月	13年6月	増減額
流動負債	124,462	121,170	3,292
買掛金	57,402	48,036	9,366
短期負債 ^{※1}	37,383	46,492	▲9,109
固定負債	116,706	95,274	21,432
社債	44,500	48,640	▲4,140
長期借入金	31,949	31,374	575
債権流動化に伴う 長期支払債務	25,294	—	25,294
負債合計	241,168	216,444	24,724
純資産合計	190,170	170,178	19,992
負債・純資産合計	431,338	386,622	44,716

主な負債・純資産の状況

- 負債合計：2,412億円（同247億円増）
主な増減要因は、買掛金94億円増、債権流動化に伴う支払債務296億円増などの一方で、有利子負債127億円減（短期性負債91億円減、長期性負債36億円減）など。
- 有利子負債：1,138億円
（同127億円減、依存率26.4%、うちACR151億円）
- 純負債：642億円（同306億円減）
- 債権流動化に伴う支払債務：296億円
はABL（Asset backed loan）により新規に資金調達。
- D/Eレシオ：0.60倍
（前3Q比0.28pt.改善、
参考：Net D/Eレシオ：0.34倍）
- 純資産：1,902億円
（前期末比200億円増、自己資本比率42.9%）

※1 短期負債＝短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債

3Q累計セグメント情報 (事業別)

ドンキホーテ HLDGS

セグメント利益は、「リテール事業」231億円、「テナント賃貸事業」52億円、「その他の事業」25億円と、いずれも順調に推移！！

当3Q累計 セグメント概要【2013年7月1日～2014年3月31日】

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	445,154	12,599	4,023	461,776	—	461,776
内部取引等	—	4,462	2,949	7,411	▲7,411	—
計	445,154	17,061	6,972	469,187	▲7,411	461,776
セグメント利益	23,094	5,223	2,501	30,818	▲1,880	28,938

前3Q累計 セグメント概要【2012年7月1日～2013年3月31日】

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	412,031	12,230	3,809	428,070	—	428,070
内部取引等	2	2,024	2,776	4,802	▲4,802	—
計	412,033	14,254	6,585	432,872	▲4,802	428,070
セグメント利益	20,371	4,004	1,714	26,089	49	26,138

※「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

キャッシュフロー&設備投資の状況

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	当3Q	前3Q	増減額
1.キャッシュフローの状況			
期首残高	36,132	29,973	6,159
営業活動CF	28,926	27,792	1,134
投資活動CF	▲26,879	▲20,127	▲6,752
財務活動CF	13,358	6,722	6,636
期中増減等	15,967	14,712	1,255
期末残高	52,099	44,685	7,414

2.設備投資の状況

設備投資額	26,590	26,664	▲74
キャッシュフロー [※]	24,350	21,839	2,511
差引	▲2,240	▲4,825	2,585

※キャッシュフロー＝純利益＋減価償却費＋特別損失－配当金

キャッシュフロー

<営業CF>

▶税金等調整前純利益295億円、減価償却費83億円及び仕入債務の増加86億円などが増加要因となる一方で、売上債権の増加16億円及び税金支払額118億円などが減少要因となったことから、289億円がキャッシュイン

<投資CF>

▶出店に伴う有形固定資産の取得234億円、同無形固定資産の取得19億円、連結範囲の変更を伴う子会社株式取得25億円などにより、269億円がキャッシュアウト

<財務CF>

▶借入金の純増41億円及び債権流動化による新規調達309億円が増加要因となる一方で、社債純減179億円及び配当金支払26億円などが減少要因となったことから、134億円がキャッシュイン

設備投資

▶当期中の新規出店に加えて、次期以降の出店予定物件を獲得したことなどで、設備投資は266億円（DQHD169億円、DQ30億円、長崎屋20億円、JAM500億円など。うち連結消去475億円：敷金保証金回収などを考慮した純増加額は239億円）。一方、営業活動CFは289億円、投資活動CFは269億円、差引20億円。

3Q連結業績概況

ドンキホーテ HLDGS

【2014年1月1日～3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q		前3Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	158,454	100.0%	138,426	100.0%	114.5%
売上総利益	40,627	25.6%	36,888	26.6%	110.1%
販管費	32,193	20.3%	29,423	21.2%	109.4%
給与手当	11,271	7.1%	9,905	7.1%	113.8%
地代家賃	4,574	2.9%	4,282	3.1%	106.8%
支払手数料	3,612	2.3%	3,195	2.3%	113.1%
減価償却費	2,902	1.8%	2,576	1.9%	112.6%
その他	9,834	6.2%	9,465	6.8%	103.9%
営業利益	8,434	5.3%	7,465	5.4%	113.0%
経常利益	8,681	5.5%	7,654	5.5%	113.4%
当期純利益	5,740	3.6%	4,556	3.3%	126.0%
1株当たり純利益	73.31円		58.94円		124.4%

3Q連結事業別業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【2014年1月1日～3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q		前3Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	152,831	96.4%	133,043	96.1%	114.9%
家電製品	14,737	9.3%	14,123	10.2%	104.4%
日用雑貨品	34,912	22.0%	30,204	21.8%	115.6%
食品	47,974	30.3%	40,592	29.3%	118.2%
時計・ファッション用品	32,303	20.4%	30,908	22.3%	104.5%
スポーツ・レジャー用品	7,356	4.6%	6,885	5.0%	106.8%
DIY用品	4,532	2.9%	4,458	3.2%	101.7%
海外	8,703	5.5%	3,609	2.6%	241.2%
その他商品	2,314	1.4%	2,264	1.7%	102.2%
テナント賃貸事業	4,250	2.7%	4,076	2.9%	104.3%
その他事業	1,373	0.9%	1,307	1.0%	104.9%
合計	158,454	100.0%	138,426	100.0%	114.5%

※報告セグメントについては、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

▶ 連結売上高：1,585億円（前期比14.5%増）

消費税増税直前の3ヵ月間は1月・2月と3月では商況が大きく変化した。

初売り日数が少ないカレンダー周りや記録的な積雪が、お客さま来店数、売上高にマイナス影響を与えた2月までとは対照的に、3月には史上空前の売上高を記録。（ご参考：DQ既存店売上高＝1・2月1.8%減、3月16.7%増）

絶対エースの「食品」や「日用雑貨品」などのコモディティ商品は、長期間保存可能な商品が全体を牽引し高い成長率を示す。「新生活需要」も手伝って、台所用品・清掃用品などの定番耐久商品の需要増も貢献。

▶ 連結売上総利益：406億円（同10.1%増）、同販管費322億円（同9.4%増）

3月の増収効果により、売上総利益は大幅増（同率は25.6%と低粗利商品の販売増に伴い1.0pt.低下）。

販管費は新店に係る人件費及び支払手数料の増加があったが総利益増益効果により吸収。

▶ これらのことから、営業利益84億円（同13.0%増）、経常利益87億円（同13.4%増）、純利益57億円（同26.0%増）といずれも当期間の最高益を更新。

<日めくりが悪かった 1月>

既存店売上高：1.3%減 客数：0.5%減 客単価：0.8%減



- 👎 ● 初売り日数1日減の影響残る
- 👍 ● 粗利改善傾向続く
- 👍 ● 滞留在庫商品の処分は順調

初売り期間カレンダー比較

2014年	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日
1月	本	祝・水	木	金	土	日	月	火	水	木
	初売り期間（5日間）									

2013年	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日
1月	前	年	祝・火	水	木	金	土	日	月	火
	初売り期間（6日間）									

<大雪に泣かされた 2月>

既存店売上高：2.3%減 客数：2.4%減 客単価：0.1%増



- 👎 ● 週末にかけて2度の降雪が外出率に打撃
- 👎 ● コモディティ商品は平日で挽回も耐久品は巻き返しを図れず
- 👎 ● 増税前の駆け込み消費メリット、実感できず

2014年豪雪について

- ✓ 2月8日（土）千代田区大手町にて27cmの積雪を記録
- ✓ 観測史上8位
- ✓ 25cm以上の積雪は45年ぶり

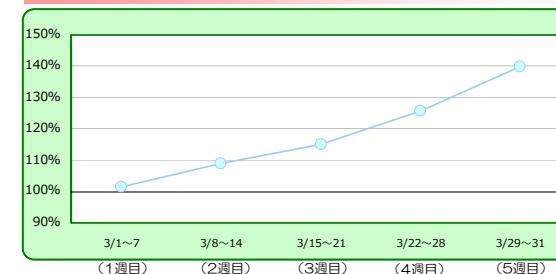
<駆け込みに沸いた 3月>

既存店売上高：16.7%増 客数：5.7%増 客単価：10.4%増

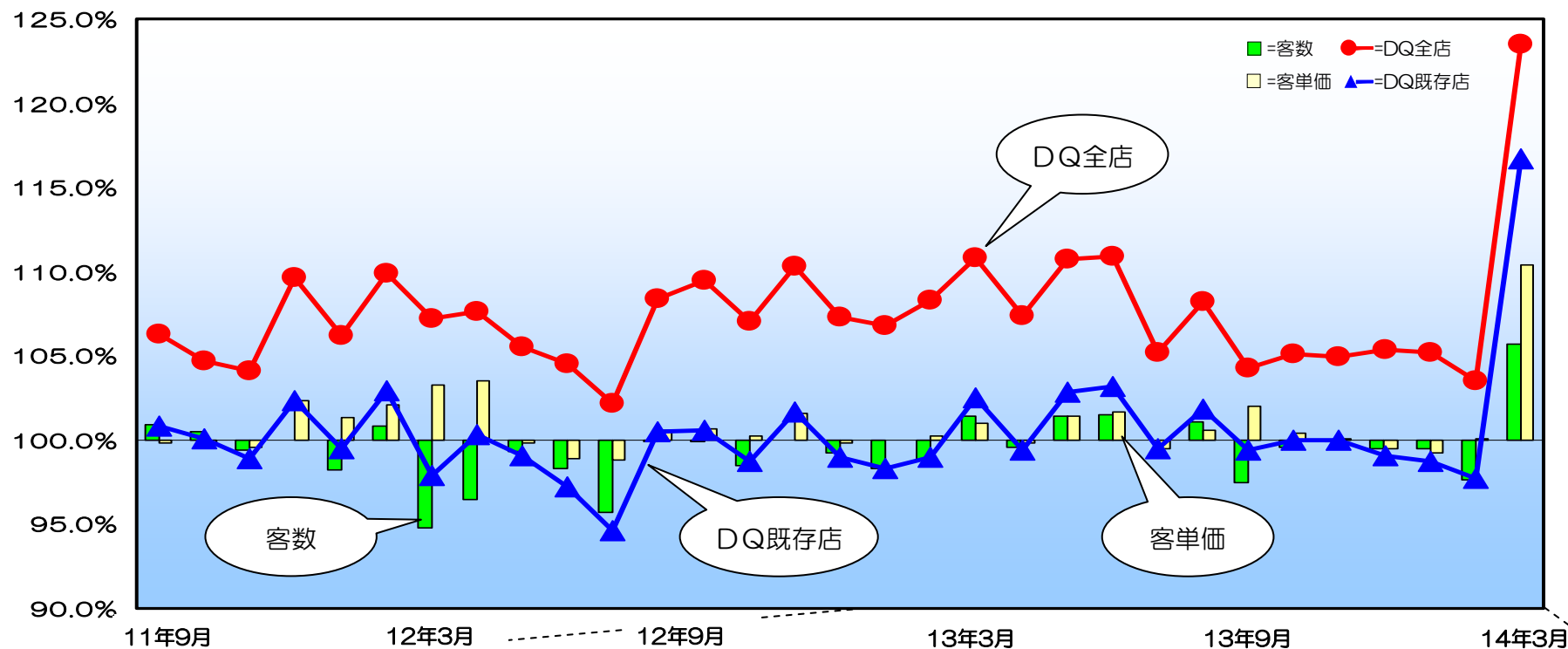


- 👍 ● 週を追う毎に「駆け込み」顕著に
- 👍 ● ニーズ商品は在庫積み込みで準備万端
- 👍 ● 金額増加額は「史上最高」

対前年同期間 既存店売上高推移



月次販売高の状況 (DQ)



既存店	13年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	14年1月	2月	3月
売上高	98.3%	99.0%	102.5%	99.4%	102.8%	103.2%	99.5%	101.8%	99.4%	100.0%	100.0%	99.1%	98.7%	97.7%	116.7%
・客数	98.3%	98.8%	101.4%	99.6%	101.4%	101.5%	100.0%	101.1%	97.5%	99.6%	99.9%	99.5%	99.5%	97.6%	105.7%
・客単価	100.0%	100.2%	101.0%	99.8%	101.4%	101.7%	99.5%	100.6%	102.0%	100.4%	100.1%	99.5%	99.2%	100.1%	110.4%
対象店舗数	173店	173店	173店	177店	178店	179店	184店	185店	185店	186店	187店	189店	192店	191店	193店

消費税増税を見据えた準備と対策を強化した上半期。

3月はコモディティ商品を中心に週を追う毎にまとめ買い需要が牽引。

3Q累計期間のDQ既存店は1.5%増（客数0.1%増、客単価1.4%増：3Qのみは4.9%増と急伸）。

当期出店状況

フォーマット別店舗数

	2012年 6月期	2013年 6月期	2014年6月期		
			1Q	2Q	3Q
ドン・キホーテ	※1 157	165	165	172	172
ピカソ	※2 14	14	14	15	15
M E G A	※3 40	39	40	41	41
New M E G A	9	17	17	21	23
海外(アメリカ)	3	3	14	14	14
ドイト	14	13	13	12	12
長崎屋	5	4	3	3	3

法人別店舗数

ドン・キホーテ	185	200	200	212	214
長崎屋	40	39	39	40	40
ドイト	14	13	13	12	12
国内合計	239	252	252	264	266
D Q U S A	3	3	3	3	3
Marukai	-	-	11※4	11	11
海外合計	3	3	14	14	14
合計	242	255	266	278	280

- ※1. 「ドン・キホーテ」には、「ドン・キホーテ」及び「パウ」が含まれておりますが、うち2店が休業中であります。
- ※2. 「ピカソ」には、「ピカソ」「エッセンス」及び「驚安堂」が含まれております。
- ※3. ㈱長崎屋が運営する業態転換店は、すべて「MEGA」に含まれております。
- ※4. Marukaiが、当1Qから連結されております。
- ※5. 上記の他に、1店(DQ)を閉鎖しております。



1月 MEGA熊本菊陽店

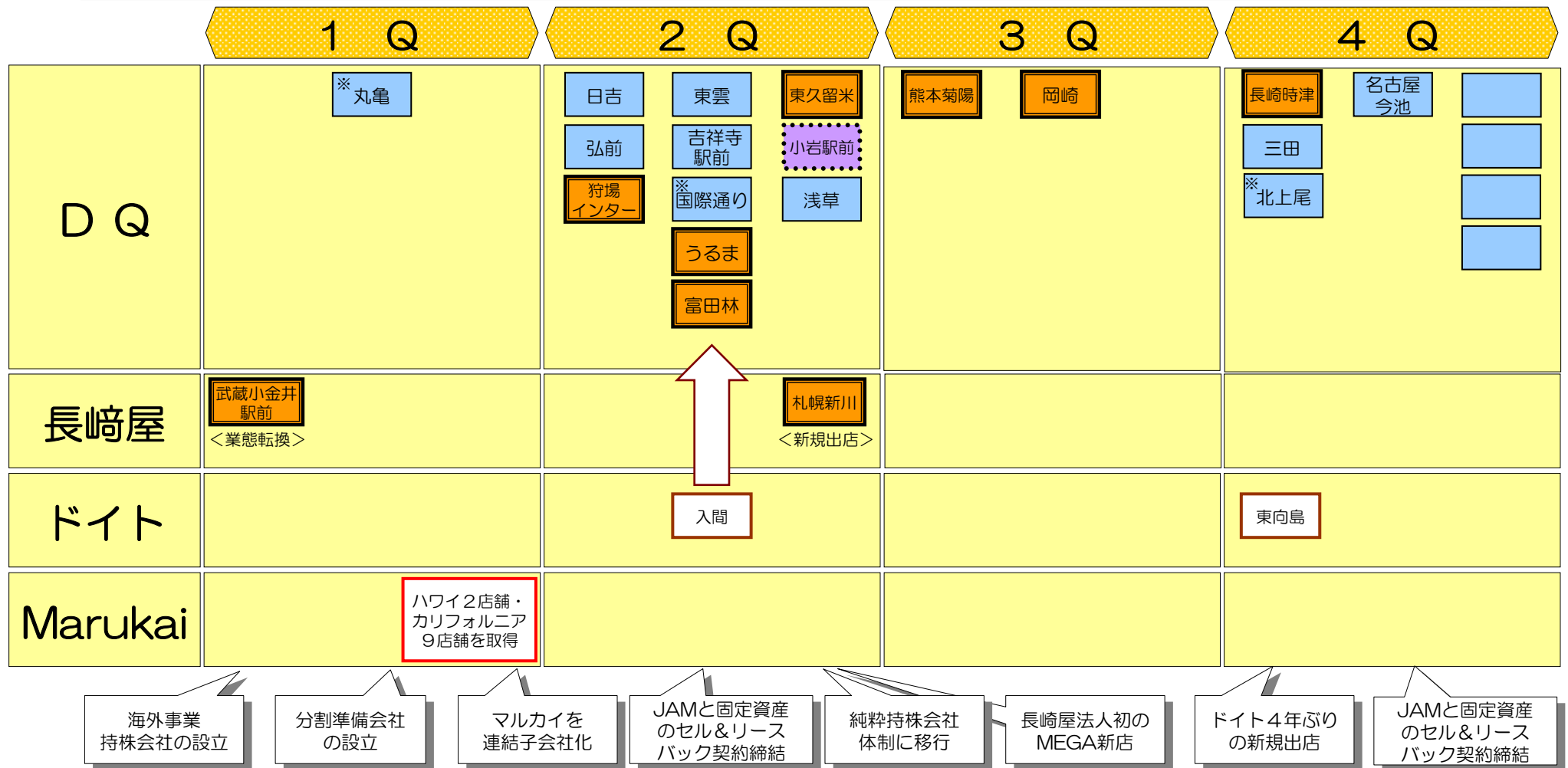


2月 MEGA岡崎店



当期ハイライト

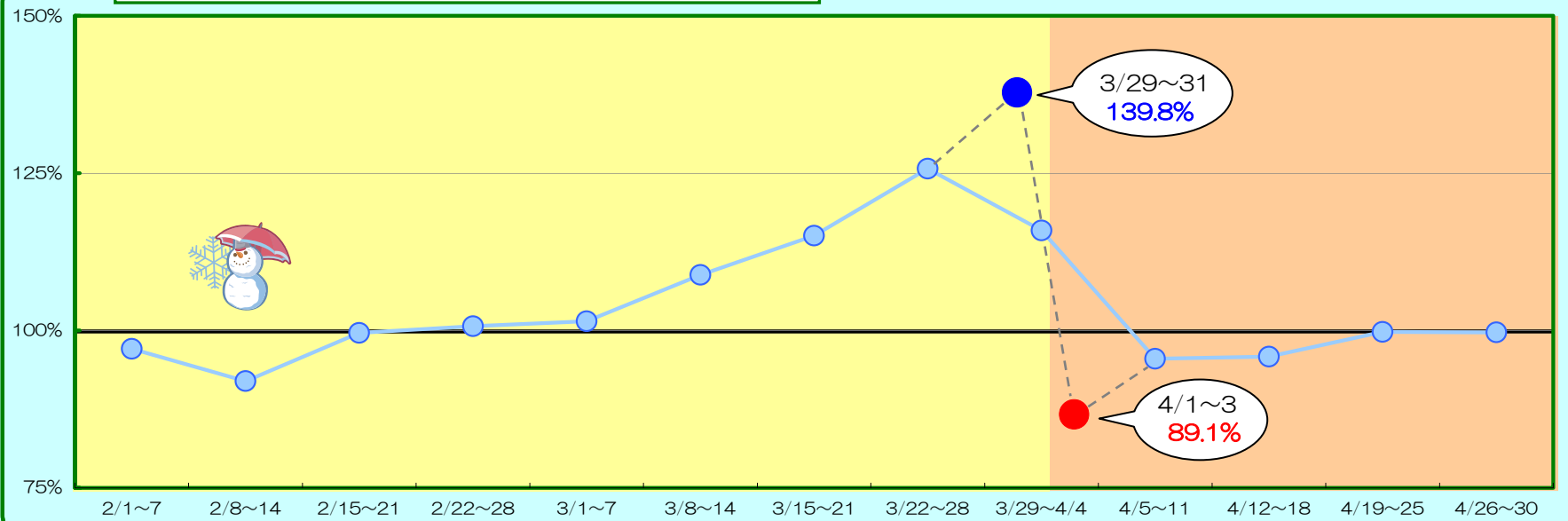
既存店は消費税増税に向けた準備と対策を万全に施して堅実な成長。
当3Q累計期間の新規出店はDQ7店、New MEGA6店を中心に15店。



春商戦レビュー

ドン・キホーテ HLDGS

売上前年対比の推移 <既存店> 期間：2014年2月1日～4月30日



お客さまに支持された商品 期間：2014年3月1日～3月31日

家電	●黒物(薄型TV/タブレットPC/PC周辺機器) ●生活(炊飯器/エアコン) ●美容(ヘアアイロン/ドライヤー)	
日用雑貨品	●キッチン関連(フライパン/ラップ・ホイル) ●消耗品(トイレトペーパー/衣類洗剤/歯ブラシ) ●布物(布団/高機能枕) ●ベビー用品(粉ミルク/オムツ) ●薬品類(栄養ドリンク/常備薬/綿棒) ●化粧品(基礎化粧品/マスカラ)	
食品	●菓子(チョコ/プレッツェル) ●飲料(ペットボトル/缶) ●酒類(発泡酒/焼酎) ●調味料(油/マヨネーズ/しょうゆ) ●保存食(カップ・袋麺/バックライス)	
時計・ファッション	●煙草	
スポーツ・レジャー	●自転車	
その他	●ペットフード	

消費増税狂想曲トリビア

ドン・キホーテ HLDGS

2014年4月1日から消費税増税が実施されました。増税前のまとめ買い需要を中心としたお客さまの様々なご要望にお応えするために、私たちは精いっぱい準備を重ねて、3月商戦に臨み、全力で戦い抜きました。その結果、3月の1ヵ月間は、2,290万6,689人のお客さまにご利用いただき、たくさんの商品をご用命いただき、数えきれないドラマが生まれました。皆さまにお伝えしなければならない“ここだけのエピソード”をお届けします。

トイレットペーパー1,313万ロールは地球32.8周分!

毎日の生活で必要不可欠なトイレットペーパーの総販売量は**1,313万5,884ロール**、総延長は**131万km**の長さ。ぐるぐる巻いたら1周4万kmの地球をなんと**32.8周**もできる長さになりました。



シャンプー類181万点で未進出県民の洗髪にご協力!

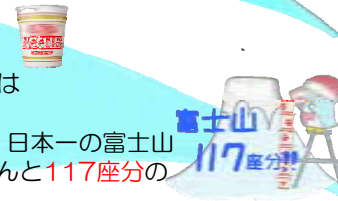
頭皮・毛髪を清潔に保つシャンプーと髪を保護するトリートメント類の総販売点数は**181万1,984点**で、これを一人で使用したら1億日を超えますが、徳島・高知・島根・鳥取4県の皆さん(279万人)にお届けしたら、約5週間もお役に立てそうです。



カップ麺 409万点は富士山117座分の高さ!

保存用にも非常用にも重宝するカップ麺の総販売点数は**409万535点**と満腹感いっぱい。

10.8cmのカップを1個ずついねいに積み上げたら、日本一の富士山(3776m)の山頂は半日かからず**117座分**の高さになりました。



味覇(中華調味料) 3万点でチャーハンを作ったら?

実は料理通の誰もが知っていて、関西では台所の必需品として人気が高い味覇は**3万985点(1,760万3,750g)**の実績。

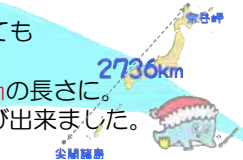
この味覇を一人当たり5g使って、美味しいチャーハンを作ったら、パナマ国(352万人)の皆さん全員が食することができます。



タバコ156万箱は宗谷岬から尖閣諸島を繋ぐ!

大人の嗜好品と言えばタバコ。禁煙・分煙ブームで肩身が狭くても総販売点数は**156万4,273箱**に。

長さ8.8cmのタバコを1本ずつ取り出して縦に並べると**2,750km**の長さ。日本地図で眺めると宗谷岬からなんと尖閣諸島まで、ひとつ飛び出来ました。



プロテイン9万点でアフリカ象を何頭持ち上げられるか?

健康食品を代表するプロテインの総販売点数は**9万1,663点**、その容量は**4万531kg**。

どんなに筋肉を鍛えてもアフリカ象と戦うことは出来ませんが、重量なら計測できるかも!なんと8.5tの**アフリカ象4.8頭**と同じ重量となりました。



ゴミ袋2,948万枚で東京ディズニーランドを敷きつめたら?

資源を有効に活用し、環境を大切にすため、今日もゴミ袋は活躍しています。

1枚当たり0.52㎡の広さのゴミ袋の販売枚数は**2,948万9,200枚**。クリーンネスのために敷きつめると、なんと東京ディズニーランド(51万㎡) **30.1個分**の広さになります。



オリンピックのプール 2.1個分!!

ビール類1,295万点はオリンピックプールを酔わす?

今夜の食事の際に欠かせないビールや発泡酒。のど越しスッキリとまとめて購入いただいた総販売点数は**1,295万2,105点**で、その容量は**521万7,770ℓ**。

アルコール好きの方にはもったいない話ですが、公認オリンピックプール(2,500㎡)に注いでみたら、**2.1個分**に相当します。

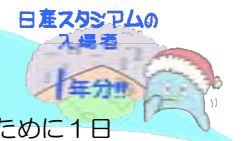
酔ったついでに記録更新の可能性は?



歯磨き粉83万点で日産スタジアムの入場者をピカピカに!

「大明香薬」と呼ばれる日本最初の歯磨き粉は江戸時代初期に販売開始されましたが、DQは**83万5,717点**を販売。

日産スタジアムの入場者(7万2,327人)全員が、虫歯予防のために1日3回丁寧に歯磨きを繰り返して365日、一日も休まなくても大丈夫でした。



3月31日は新記録樹立!

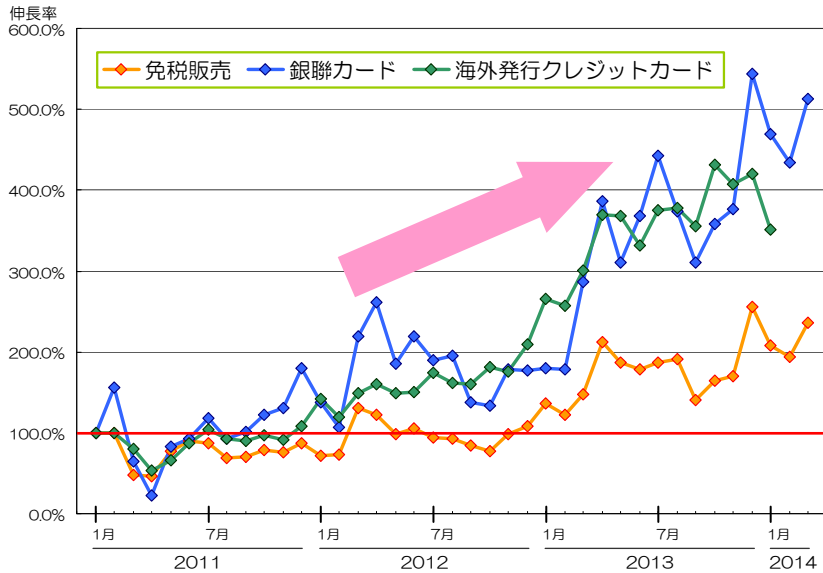
その日は月曜日。翌日から消費税が17年振りに増税となるためか、早朝から普段と様相が異なる熱気であふれ、歴史を刻んだ一日となりました。

その日は過去最高の**31億2,600万円**の販売高を達成。クリスマスイブを抜いて新記録樹立。ありがとうございます! またお越しくださいませ!

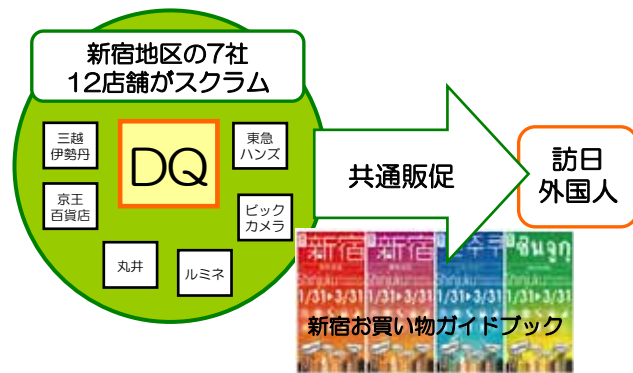


ようこそドン・キホーテ!!

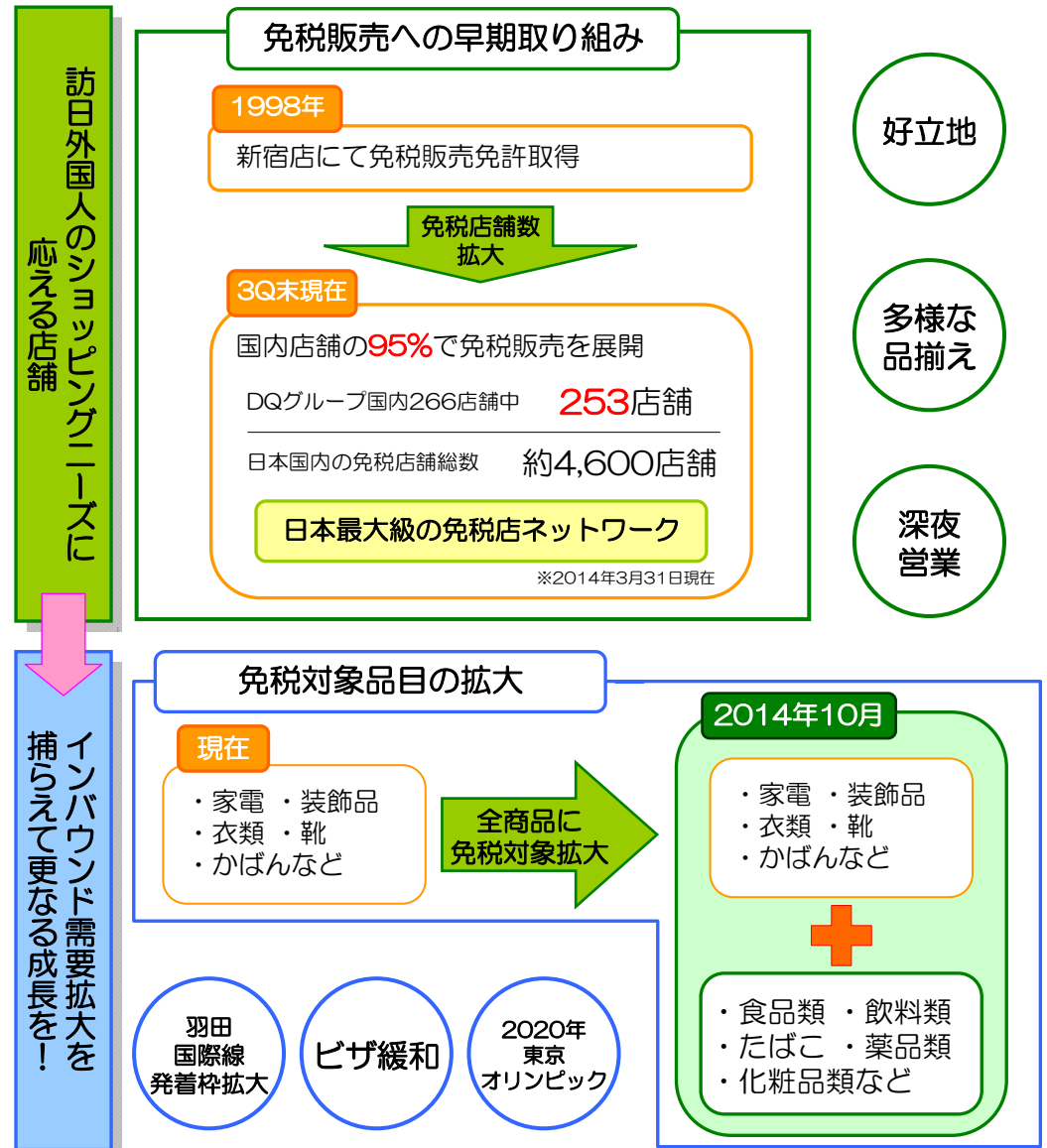
■訪日外国人売上のトレンド



■新宿ショッピング・キャンペーン2014春



■免税への取り組み



組織再編に伴う進捗状況

(単位：百万円、%)

連結

	当3Q		
	実績	百分比	前期比
売上高	158,454	100.0	114.5
売上総利益	40,627	25.6	110.1
販管費	32,193	20.3	109.4
営業利益	8,434	5.3	113.0
経常利益	8,681	5.5	113.4
当期純利益	5,740	3.6	126.0



	前3Q		
	実績	百分比	前期比
売上高	138,426	100.0	105.4
売上総利益	36,888	26.6	110.2
販管費	29,423	21.2	107.2
営業利益	7,465	5.4	123.4
経常利益	7,654	5.5	120.0
当期純利益	4,556	3.3	114.7

ドン・キホーテ
(リテール事業)

	当3Q		
	実績	百分比	前期比
売上高	106,198	100.0	111.4
売上総利益	26,363	24.8	105.0
販管費	21,702	20.4	109.9
営業利益	4,660	4.4	87.1
経常利益	5,041	4.7	90.4



	前3Q		
	実績	百分比	前期比
売上高	95,301	100.0	107.6
売上総利益	25,106	26.3	112.2
販管費	19,756	20.7	109.7
営業利益	5,351	5.6	122.5
経常利益	5,576	5.9	119.4

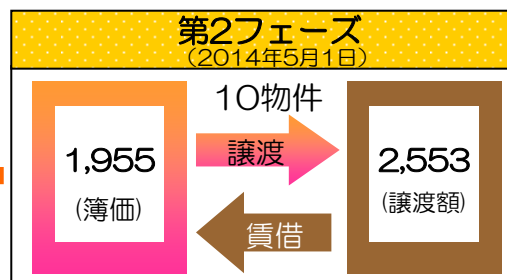
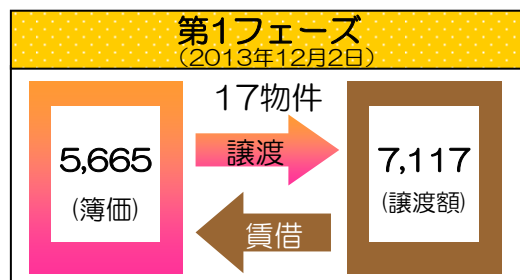
<分割後DQ>

<分割前DQ>

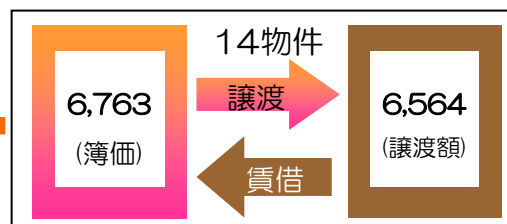
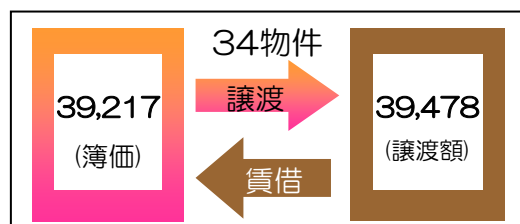
消費増税前の駆け込み特需の販売商品構成と滞留商品の在庫処分が売上総利益率の低下を招く。

一方、販管費はJAMから賃借するリース料などが増加。

固定資産
の
譲渡



信託受益権
の
譲渡



(単位：百万円)

中長期の重点戦略と当期の施策

ドン・キホーテ HLDGS

—中長期重点戦略—

1. 30期連続増収増益を目指す
2. PB強化による利益率アップ
3. ソリューション出店を含めた多彩な店舗開発

2012年8月発信

—2014年6月期施策—

お客さま満足の最大化を追求しながら、継続的な成長と安定を目指す！

1. グループ：組織・事業再編を通じて、経営構造の変革に柔軟に対応
2. 営業方針：消費税増税後における消費環境の変化に機敏、かつ柔軟な対応力を発揮
商圏内競争力をいっそう高めて、ブランド力の底上げを図る
お客さまニーズにお応えする商品編集とサービスレベルの向上
3. 商品戦略：消費マインドの変化に適應する商品ポートフォリオの改廃と進化の繰り返し
生活必需品の品揃え強化と徹底したEDLPの推進
付加価値の高いディスカウント体制の一層の強化
4. 店舗戦略：設備投資額350億円（Marukai取得費・予備費を含む）
新規出店24店、都市型店の開発強化、MEGA店の収益力強化
DQ既存店の予想：下期＝0.0%、通期＝±0.0%
5. 財務戦略：資金効率及び収益力を高めてバランスシートを改善
デット及び債権流動化に伴う資金調達を実施。エクイティファイナンスの予定無し
年間配当金予想＝33円00銭（前期まで10期連続増配継続中！）

通期の連結業績予想

ドンキホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	通期修正予想			前回予想 ※		前期実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	605,000	100.0%	106.4%	596,300	100.0%	568,377	100.0%
売上総利益	159,200	26.3%	106.3%	158,700	26.6%	149,807	26.4%
販管費	125,000	20.6%	106.4%	124,500	20.9%	117,437	20.7%
営業利益	34,200	5.7%	105.7%	34,200	5.7%	32,369	5.7%
経常利益	35,000	5.8%	105.4%	34,800	5.8%	33,201	5.8%
当期純利益	22,200	3.7%	105.0%	21,800	3.7%	21,141	3.7%
1株当たり純利益	283.36円	—	103.6%	278.80円	—	273.47円	—
設備投資額	35,000	—	117.0%	35,000	—	29,914	—
減価償却費	10,000	1.7%	99.7%	9,800	1.6%	10,028	1.8%

「顧客最優先主義」と「企業価値の拡大」を追求し、
引き続き増収増益決算を目指します。

上場子会社決算業績概況

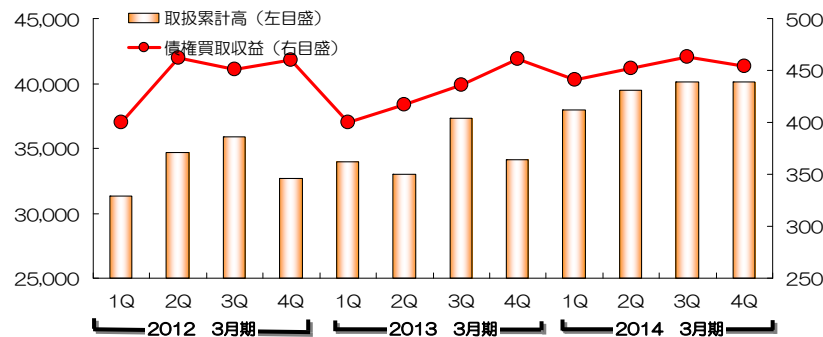
ドンキホーテ HLDGS

<アクリティブ：8423>

(単位：百万円)

【PL概況】	2014年3月期			2013年3月期		
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	
取扱累計高	157,693	—	113.8%	138,626	—	
営業収益	2,932	100.0%	104.4%	2,807	100.0%	
債権買取収益	1,810	61.7%	105.6%	1,714	61.1%	
業務受託収益	1,014	34.6%	109.0%	930	33.1%	
その他収益	108	3.7%	66.3%	162	5.8%	
金融費用	200	6.8%	69.5%	288	10.3%	
販売管理費	1,622	55.3%	102.1%	1,589	56.6%	
営業利益	1,110	37.9%	119.4%	929	33.1%	
経常利益	1,143	39.0%	116.7%	979	34.9%	
当期純利益	1,177	40.1%	137.9%	853	30.4%	

【取扱累計高及び債権買取収益】 (百万円)



【BS概況】	当4Q末		前期末	
	金額	増減	金額	
総資産	19,644	▲747	20,391	
負債	15,681	▲1,885	17,566	
純資産	3,963	1,139	2,824	

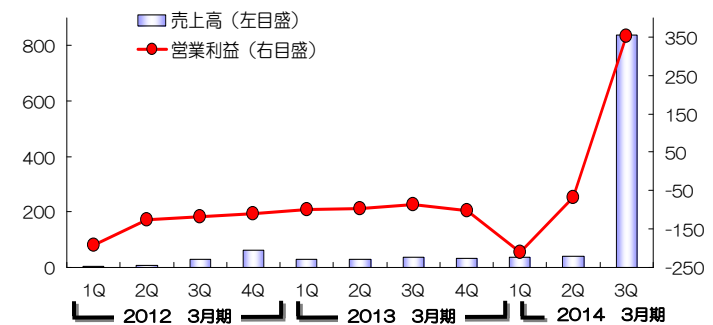
<日本アセットマーケティング：8922>

(単位：百万円)

【PL概況】	当3Q (13年4月1日～12月31日)			前3Q (12年4月1日～12月31日)		
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	
売上高	915	100.0%	943.3%	97	100.0%	
売上総利益	407	44.5%	—%	▲53	▲54.6%	
販売管理費	332	36.3%	144.3%	230	237.1%	
営業利益	75	8.2%	—%	▲284	▲292.8%	
経常利益	▲51	▲5.6	—%	▲314	▲323.7%	
当期純利益	▲34	▲3.7	—%	▲89	▲91.8%	

(注) JAMIは3Q決算を表示しております。同社の4Q決算発表は5月14日を予定しております。

【売上高及び営業利益】 (百万円)



【BS概況】	当3Q末		前期末	
	金額	増減	金額	
総資産	56,352	56,039	313	
負債	54,494	54,385	109	
純資産	1,858	1,654	204	

本日はありがとうございました。

ドンキホーテ HLDGS

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドンキホーテホールディングス IR部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

IRカレンダー

第34期（2014年6月期）決算発表（予定）

決算発表日：2014年8月18日（月）

説明会会場：野村コンファレンスプラザ日本橋（東京都中央区日本橋室町2丁目4番3号 日本橋室町野村ビル6F）

将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

ドン.キホーテ HLDGS